

[View this email in your browser](#)

Tomoko
Mukaiyama
Foundation^{x.}

multus
マルタス 

「HOME」 高知での再演



© Tomoko Mukaiyama

さいたまトリエンナーレで好評を得た「HOME」が、高知県立美術館の招きで、高知県の赤岡町にある築150年の民家を舞台に再演される。文字通り世界を舞台に飛び回る湯浅さんの身体と息遣いをこんなに間近で観劇する場所はこちら以外におそらくないだろう。赤岡は太平洋を目の前に抱き、浮世絵師絵金の街でもある。町の歴史を体感しながら我々一人ひとりの「HOME」について、思いをめぐらしていただければと思っている。作品の性格上、ひと公演ごとの入場に制限がありますので早めにご予約を。初夏の高知でお待ちしております。

「HOME」 2018年4月30日（月） - 5月13日（日） 赤岡町、高知
お申込みは[こちらから](#)



Home

島をつなぐ儀式「雅歌」



©Tomoko Mukaiyama

雅歌と書いて「がが」と読む。とあるところで見えた絵画のタイトルが、ずっと心にひっかかっていた。架空の音楽である。存在しない雅びな歌とは一体どんなものだろうか。

生まれが紀州・新宮で、幼い頃は祭事・儀式に連れていかれることが多かった。司る人の中に女性がいないことも子供

心に気になった。舞台芸術に関わるようになり、観客との間にあつい熱が交換されることが最上の喜びになった今、あの頃に見た神々や自然への礼拝、畏敬を持って繋がるための儀式のことを思い出すことが多くなった。目に見えないものへの畏敬の念を抱かせる新しい儀式を作ることは、現代人の私たちにも可能なのだろうか？

「雅歌」はウクライナ出身の音楽家、マキシム・シャギリ、中国出身のデザイナー、ティン・ゴン、振付は山田うん、彼女のカンパニーであるCo.山田うんの女性ダンサーと湯浅永麻、長崎県五島列島で出会った少年をパフォーマーに、技術監修に遠藤豊を迎え、人間の手で厳重にデザインされた自然のなか、自然保護を謳うテルスヘリング島、夕陽を見上げる高知県立美術館の中庭、伊豆諸島の神々の神話を今なお残す神津（こうづ）島という3つの場所で上演予定。

2018年6月15日(木) - 6月24日(日) [Oerol Festival](#) テルスヘリング島、オランダ

2018年7月13日(金) - 7月14日(土) [高知県立美術館](#)、高知

2018年7月21日(土) - 7月22日(日) 神津島前浜海岸、東京



「砂の女」 (ウーロル・フェスティバル、2016年)

East Shadow in プラハ



あいちトリエンナーレ2013で初演されたイリ・キリアン演出のパフォーマンス作品「East Shadow」がプラハの国際パフォーミング・アート祭 TANEK PRAHAのオープニング作品として上演される。ベケットを題材に東日本大震災での津波の被害者に捧げられた本作は、2013年の初演以来、世界中を巡っている。生と死、老い、突然の災厄と人生の不条理などがキリアン特有のユーモアで繋がれていく。統合と分離の歴史を持つチェコは、キリアンの故郷（HOME）でもある。

2018年6月1日(金) - 6月3日(日) [TANEK PRAHA](#) プラハ、チェコ



East Shadow

向井山朋子
Tomoko Mukaiyama



Tomoko Mukaiyama Foundation
tomoko.nl info@tomoko.nl

Multus
multus.jp info@multus.jp

Want to change how you receive these emails?
You can [update your preferences](#) or [unsubscribe from this list](#)